

3 . 競技本部執行方針（案）

競技本部は昨年から「スポーツ・フォア・オール」の観点から、開かれた競技会を目標に新たな競技者層の発掘に力を入れて取り組んでまいりました。

特にチャレンジカップシリーズについては成果が現れつつあり、今後競技選手の減少が予測される中で、スキー界のリーダーとしてスキー競技の楽しさを一人でも多くの人に広め、特に会員以外の新たな競技者層獲得を競技本部の基本方針として、今期も継続して取り組んでまいります。

更に、スキー界の活性化を目標に、各ブロック、加盟団体で開催されている競技会の公認に向け、連盟の専門委員を含め各団体の指導者育成についても積極的に取り組むと同時に、競技団体として国体は勿論の事、雪無し県からオリンピック選手を目指し、ジュニア選手発掘育成事業の強化と、携わる指導者の育成も合わせて取り組んでまいります。

また、厳しい社会情勢が続くなかで、競技会運営についても大幅な見直しが必要な時期でもあります。競技会運営の一括委託等も考えながら、経費の節約を考えた事業執行についても努力してまいります。

活性化委員会からの答申も視野入れ、スキー界のリーダーを担いながら、スキー人口増加に向け一層の努力と、競技スキーの普及に努力してまいりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

1 . 選手強化

ジュニア育成強化、普及は順調に進み、同時にレベルも高まりつつあり、質の高い指導者が要求されています。連盟の指導者を含め各地のジュニア指導者対象のセミナー開催により、指導者のレベル向上およびジュニアの指導方針の一本化を目指し、ジュニアの発掘育成強化から国体を目標に、息の長い選手育成強化を進めてまいります。

国民体育大会については、数年来低迷が続いておりましたが、優秀な選手の発掘により今期はシード権を確保する事が出来、明るい兆しが見え始めました。今後安定した成績を残せる様に、選手の発掘と強化を継続してまいります

また、ノルディック、フリースタイル部については、ジュニア層が薄く、今期はジュニアの普及活動を重点に取り組みます。

2 . 指導者育成

各委員会とも大会数、競技人口に比較してSAJ有資格者が不足しています。マテリアルの進歩、参加選手の競技会参加目的の多様化による、体力、レベル差などにより、運営指導者に豊富な知識と、指導力が求められてきております。選手の安全を最優先した運営を目指す為には教育を受けた公認の指導者が求められます。加盟団体からの優秀な指導者の推薦者とSAK有資格者の再教育などにより指導者の育成強化を図り、優秀な指導者についてはSAJの各種資格を取得させ、下部団体へのフィードバックなどにより組織全体の活性化に努めていきます。

3 大会運営

各部とも専門委員会のレベルアップにより諸課題を克服してまいりました。今期は大会運営は経費削減が相当に求められます。そのために、大会運営の質を落とさず、継続された指導者育成に影響のない範囲で連盟派遣役員を最小必要人数に押さえ、現地役員の増加で、経費の削減に努めます。

また、気軽に参加できるチャレンジカップ、マスターズ大会を目指し、県民に広く知っていただく宣伝活動を行い、新たな競技者層の発掘に努力致します。